

## 園内飼育爬虫類におけるサルモネラ属菌保有状況調査

真砂聖令菜<sup>1)</sup>, 大滝侑介<sup>1)</sup>, 村田亮<sup>2)</sup>

(<sup>1)</sup> 横浜市立野毛山動物園, <sup>2)</sup> 酪農学園大学獣医細菌学研究室)

近年爬虫類によるサルモネラ感染症が懸念されている。本研究では、園内飼育爬虫類におけるサルモネラ属菌 (*Salmonella* spp.) の保有状況を調査した。その結果、58 検体中 5 検体の糞便からサルモネラ属菌が分離された。さらに血清型を調査した結果、ボールニシキヘビ (*Python regius*) 3 検体から *Salmonella enterica* subsp. *enterica* serovar II bellville, *S. Lome* もしくは *S. Sokode*, *S. Zigong*, グリーンイグアナ (*Iguana iguana*) 1 検体から *Salmonella* sp., ミヤコカナヘビ (*Takydromus toyamai*) 1 検体から *S. Zigong* が分離された。いずれも病原性の報告はないが、不明な点が多いため今後も衛生面に配慮し調査を継続する必要がある。またミヤコカナヘビからのサルモネラ属菌分離は、本研究が初めての報告となった。